

土佐のわらべ

第430号《第452回（2017. 10. 12） 子どもの本の読書会記録》参加者6人・文書参加3人

『天才コオロギニューヨークへ』

ジョージ・セルデン／作 ガース・ウィリアムズ／絵 吉田 新一／訳 あすなろ書房

『タッカーのいなか』

ジョージ・セルデン／作 吉田 新一／訳 ガース・ウィリアムズ／絵 評論社

今回は、『天才コオロギニューヨークへ』と、
続編の『タッカーのいなか』の2冊を、
同時にやらせてもらいました。

本当に児童文学の王道のような本で、
安心して楽しめます。

2冊とも、面白いのですが、
2冊続けて読むと、

流れが良く分かり、また、
色々な場面の対比が愉快です。

1冊目は都会、

2冊目は田舎、

1冊目のピンチは、火事、

2冊目のピンチは、洪水

1冊目の子供は、男の子、

2冊目の子供は、女の子、

そして、旅をして、帰るのは、…

ぜひ、コオロギとネズミとネコが、
どうやって出会い、

どんなふうに関係を築いたのか、

ピンチは乗り越えられたのか、

また、この3びきは、

人間の危機にも救いを？

旅の終わりのお別れは、

ぜひ読んでもらいたいと思います。

子供はもちろん！大人が読んでも、

ほっこりしてもらえます。

秋の夜長に、コオロギの声を想って、
本のページを開いてください。

間、間に入っている、

イラストも素敵で、

物語の世界へ誘ってくれます。

(M. O)